

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	54	学校名	県立竜ヶ崎第一高等学校						課程	定時制		学校長名		太田垣 淳一			
教頭名	高山 雅子										事務（室）長名		沢辺 貞男				
教職員数	教諭	6	養護 助教諭	1	常勤 講師	0	非常勤 講師	2	実習教諭、実習講師、 実習助手		0	事務職 員	1	技術職 員等	3	計	13
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		8	5	9	11	8	3	7	3	32	22	4				

2 目指す学校像

10 年先を透徹した生徒主体の探究型学習を通じ STUDENT AGENCY を育む。

3 三つの方針（スクールポリシー）

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	○【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する。 ○【誠実】 まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる。 ○【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける。 ○【協和】 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる。
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	○全教職員が生徒一人一人の状況や動向への把握・理解に努め、働きながら学ぶ生徒の「心の居場所・拠り所」となるよう学校環境の整備を図る。 ○授業計画や授業方法の工夫改善により生徒たちの学習意欲をより高め、学習活動を充実させることで、充実した学校生活を送れるよう支援する。
「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	○本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材を受け入れる。

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学 習 支 援	学業へ取り組む姿勢に真摯さ、ひたむきさはあるが、家庭学習時間の確保が困難な生徒が大部分を占める。	「学び直し」も含め、学業に対する適切な動機付けと、基礎学力の確かな定着を図る。
進 路 支 援	生徒の約 7 割が就職希望であるが、意欲の面で個人差がある。進学希望者は多くの場合、学資の面で問題を持つため、具体的な計画が立てにくい状況である。	生徒の実態に合わせた個別最適な指導を行い、就職内定率の向上及び上級学校への進学者数の増加に努める。
生 徒 支 援	昨年度の 1 日の平均欠席者数が約 3 人である。さらに欠席者を減らす工夫、改善が必要である。	多くの生徒がアルバイトをしながら学ぶという状況において、生活全般における基本的な生活習慣の改善を図る。
特 別 活 動	各種の学校行事や生徒会活動への参加について消極的である。なお、自身のキャリア形成について、将来の展望を見通せていない部分がある。	日々の授業やアルバイトの奨励を通じて、社会性を培い、連帯・協調の精神を育成する。キャリア・パスポートを活用し、将来像を考え、豊かなキャリア形成を図る。
健 康 管 理	心身の健康に不安を持つ生徒が多く見られる。1 日平均 1 ～ 2 人程度の保健室の利用がみられる。	個々の健康への不安に対応したサポート体制を構築し、心身の健康の保持増進を図る。
働き方改革	休暇取得状況や毎日の勤務時間については、おおむね良好に保たれている。	良好な職場環境を常に整えるとともに、校務をよりデジタル化し、効率的な業務を保持・継続する。

5 中期的目標

- I C Tを活用した学習を推進し、多様な学びを促進する学習環境を提供する。
- 生徒事故等が無いことを目指し、安全・安心の学校環境を維持する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学習指導の充実に努め、確かな学力の定着を図る。	①授業への積極的な参加を促し、基礎的・基本的内容を身に付けさせ、一人一人が楽しく学べるよう学習環境を整える。 ②授業内容や指導法の工夫に努めながら指導スキルの向上に努め、日々の授業を充実させる。
進路支援を充実させ、希望する進路の実現に努める。	①個別面談を効果的に実施し、個々の生徒の実態を把握し、それぞれの能力・適性に応じた適切な進路指導に努める。特に就職指導・キャリア教育の充実に努める。 ②有効な進路情報の提示や資料の収集・活用に努め、日常のふれあいの中で生徒との良好な人間関係を構築し、自ら進路決定できるように支援する。 ③キャリア・パスポートを活用し、ホームルームや総合的な探究の時間で目標設定や振り返りを行う。 ④教員間の情報の共有を促進し、組織力を高め協働して効果的な進路指導を進める。
基本的な生活習慣の確立に努め、規範意識を培う。	①社会の一員としての自覚を促し、当たり前のことを当たり前にできる生徒の育成に努める。あいさつの励行、清掃の徹底、規範意識や道徳心の育成により落ち着いた学校生活づくりに努める。 ②教員間の協働体制の下、教員が傾聴する姿勢を重視し教師と生徒の信頼関係の構築を図り、多様な背景を持った生徒一人ひとりが、安心・安全に学び続けられる居場所づくりに努める。 ③心の悩み・生活上の困りごとの把握や、問題行動の早期発見・早期解決に努め、「いじめ」は絶対に許さないという意識の涵養に努める。
体育・スポーツ活動を奨励し、豊かなスポーツライフを実現しようとする精神の陶冶と体力向上に努める。	①体育の授業や学校行事に積極的な参加を促し、自ら考え行動する中で運動する楽しさや、仲間との交流の喜びを体感し、活動意欲が向上するように努める。 ②定時制通信制大会への参加を通して、自己の役割を自覚し、助け合いや協力によって仲間意識を育むとともに、生徒間の相互理解や相互尊重の心と道徳心を涵養する。 ③校外活動を通して社会への関心を高め、意欲的に社会貢献のできる心豊かな人材の育成に努める。
働き方改革を推進し、教職員が健康で働きやすい環境整備を目指す。	①夏季休暇の100%取得、閉庁日の完全実施、年休(時間単位を含む)の積極的取得(15日以上)等、休暇の取得等がしやすい環境づくりを推進する。 ②校務のデジタル化をさらに推進し、業務効率の向上やその他の課題解決に向けて取り組む。
学校評価を活用し、教職員の授業改善の意識向上に努める	①生徒による授業評価結果を活用し、授業改善を図る。 ②教え方、生徒への対応に、不足ない評価が得られるように、指導改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努める。